

今一度消毒の徹底を！

口蹄疫及び鳥インフルエンザは現在、日本での発生はありません。しかしながら、中国や韓国など海外での発生は見られています。

近年、中華圏の方々が多く来日し、病原体の侵入に対しいっそうの注意が必要となります。

そこで、農場内外の消毒について、今一度見直してみましょう。

1 農場内外の消毒

農場出入口の消毒は、病原体を出さない入れないためには必須です！



- ・写真1のとおり動力噴霧器を準備していることが望めます。
- ・動力噴霧器が設置できていなければ、写真2のとおり石灰散布をお願いします。石灰散布は5m以上の長さ（タイヤが1回りできる長さ）が必要です。また、写真2の右上にある「車輪付カゴ」を使用すれば、石灰散布が簡単にできます。参考にしてください。

2 畜舎間の消毒

畜舎間の手指、長靴の消毒は、農場にある病原体を免疫の弱い個体（子牛、哺乳豚等）へ感染させないために重要です。

(1) 手指の洗浄及び消毒

- ・写真3は、水だけと石けんで手洗した場合、どの程度病原菌が付着残存しているかの比較です。一目瞭然、石けんで手洗いしましょう。また、アルコールなどの消毒薬の利用についても手洗い後が効果的です。



(2) 踏込消毒槽

- ・ 消毒液の効果は、有機物（血液、糞便、土等）の存在下で減少してしまいます。長靴は、水洗後に消毒してください。

また、消毒薬は温度によっても下図のとおり効果が変わります。そのため冬季は高濃度の消毒薬を利用してください。その他、温度に影響を受けにくい種類（塩素系、ヨード系）に変更するのもよいかもしれません。ただし、塩素系、ヨード系は有機物の影響を受けやすいため注意が必要です。

○ A 消毒薬の消毒効果に及ぼす温度の影響

- ・ 感作時間 10 分で大腸菌を殺菌できる消毒薬の濃度（希釈倍数）

温度（℃）	濃度（希釈倍数）
5	3,000
10	7,500
20	15,000
30	25,000
40	35,000

農場を病原体から守るという意識を常に持ち、基本的な消毒を継続実施してください。